

へびの怖さ 正体は

霊長類 危険察知で視覚発達か

へびが怖いのは、うろこのせいなんです。人間やサルなどの霊長類は、へびのうろこに脅威を感じ、いち早く察知しているという研究結果を、名古屋大学の川合伸幸教授（認知科学）が発表した。霊長類が進化の過程で、視覚システムを発達させてきたと考えられるという。

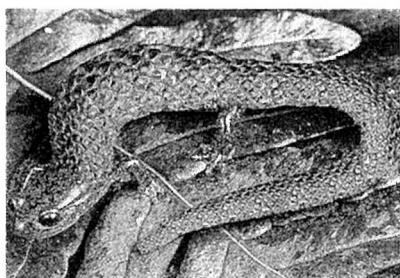
（宮崎正嗣）

名大教授サル実験で成果

霊長類の祖先が木の上で生活するようになったのは約6500万年前で、へびは当時、霊長類を捕食できた主だった動物だったといわれる。川合教授によると、へびを見たことのないサルや人間の幼児は、へび



川合伸幸教授



っていた。しかし、へびのどのような特徴に反応するのかは解明されておらず、うろこのほか、足の長い細長い体や体の色などが要因として考えられていた。

川合教授はうろこに着目
へびのうろこの画像を合成したイモリの写真＝川合伸幸教授提供

し、本物のへびを見たことのないニホンザル3匹を対象に実験。動物が写っている9枚の白黒写真から、1枚だけ別の動物を選ばせた。8枚のイモリから1枚のへびを選ぶ場合と、8枚のへびから1枚のイモリを選ぶ場合を比べると、8枚のイモリから1枚のへびを選ぶ方が、3匹とも見つける時間が早くなることが分かった。その差は全体の傾向としてわずか0.04〜0.05秒程度だったが、へび相手では「生死を分ける時間」になるといふ。

さらに、イモリの体にへびのうろこの画像を合成した白黒写真を使って、同じ実験を実施。見つける早さを比べると、2匹はへびを選んだ時間と同じで、1匹はそれよりも早く、へびのうろこをつけたイモリを見つけた。

川合教授は「（霊長類は）へびの独特の動きや細長い形ではなく、うろこに対して敏感に反応していることが分かった」と分析。「霊長類はいち早くへびが察知できるよう、視覚を進化させてきたと考えられる」とし「野生サルによる農作物被害の防止に、うろこが役立てられるかもしれない」と期待を込める。

研究の成果は、英科学誌「サイエンティフィック・リポート」に掲載された。